


2020年3月期 第1四半期

# 決算説明会資料

2019年8月7日

東証1部 コード6569

 **日総工産株式会社**

- 1. 2020年3月期 第1四半期 決算概要**
  - 1-1 活動の概況**
  - 1-2 今後の見通し**
- 2. 2020年3月期 業績予想**
- 3. 株主還元方針**

# 1. 2020年3月期 第1四半期 決算概要

# 2020年3月期 第1四半期 単体業績ハイライト



- 売上高は、期初、米中貿易摩擦や消費税影響の不透明感などにより顧客は増員に慎重な姿勢であったが、5月中旬以降に人材需要は増加傾向に転じ、前年同期比13.5%増となる
- 費用面では、第2Q以降の売上高拡大に向けた住居関連や教育費用などの先行投資、就業者への一時金などが発生、一方、販管費の抑制を進めたことにより営業利益は前年同期比17.3%増となる

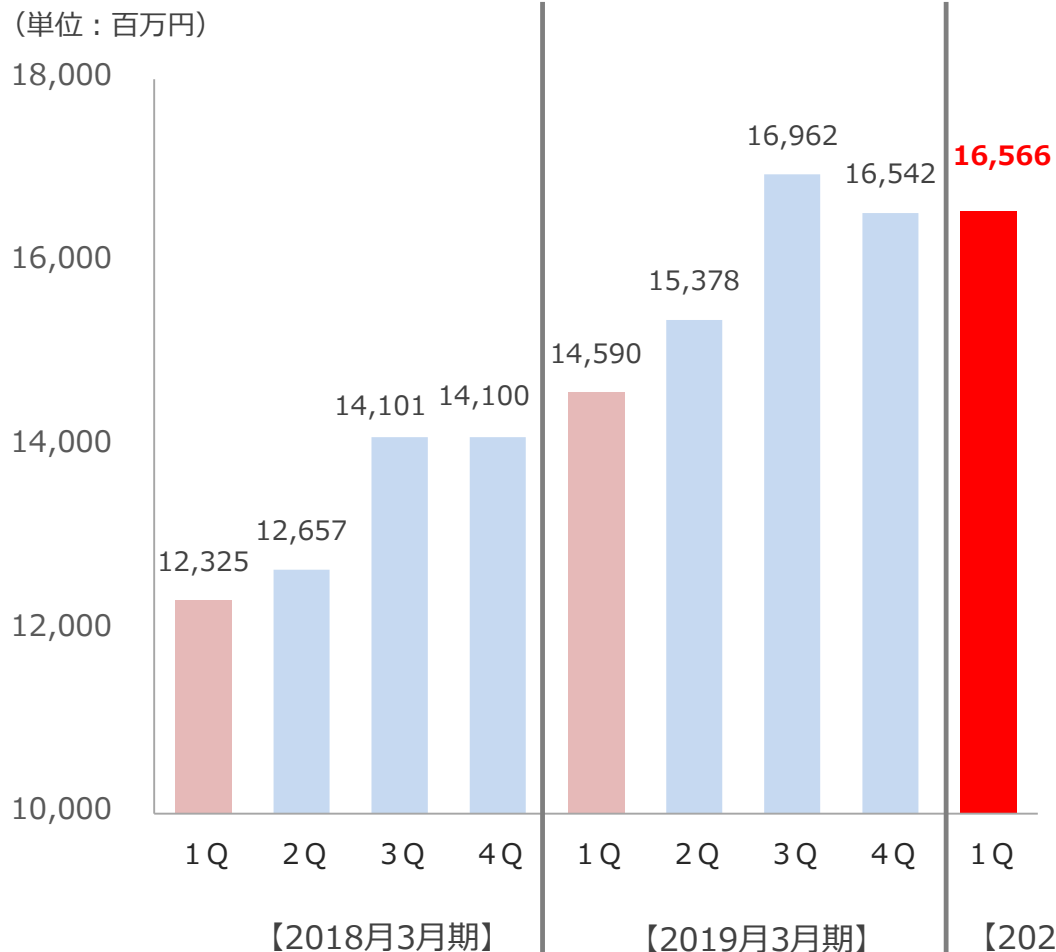
(単位：百万円)

	2019年3月期第1四半期		2020年3月期第1四半期		対前年同期比	
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
売上高	14,590	100.0%	16,566	100.0%	1,975	13.5%
売上総利益	2,515	17.2%	2,794	16.9%	279	11.1%
販管費	2,115	14.5%	2,325	14.0%	210	9.9%
営業利益	399	2.7%	468	2.8%	69	17.3%
経常利益	411	2.8%	469	2.8%	58	14.2%
四半期純利益	259	1.8%	342	2.1%	82	31.7%

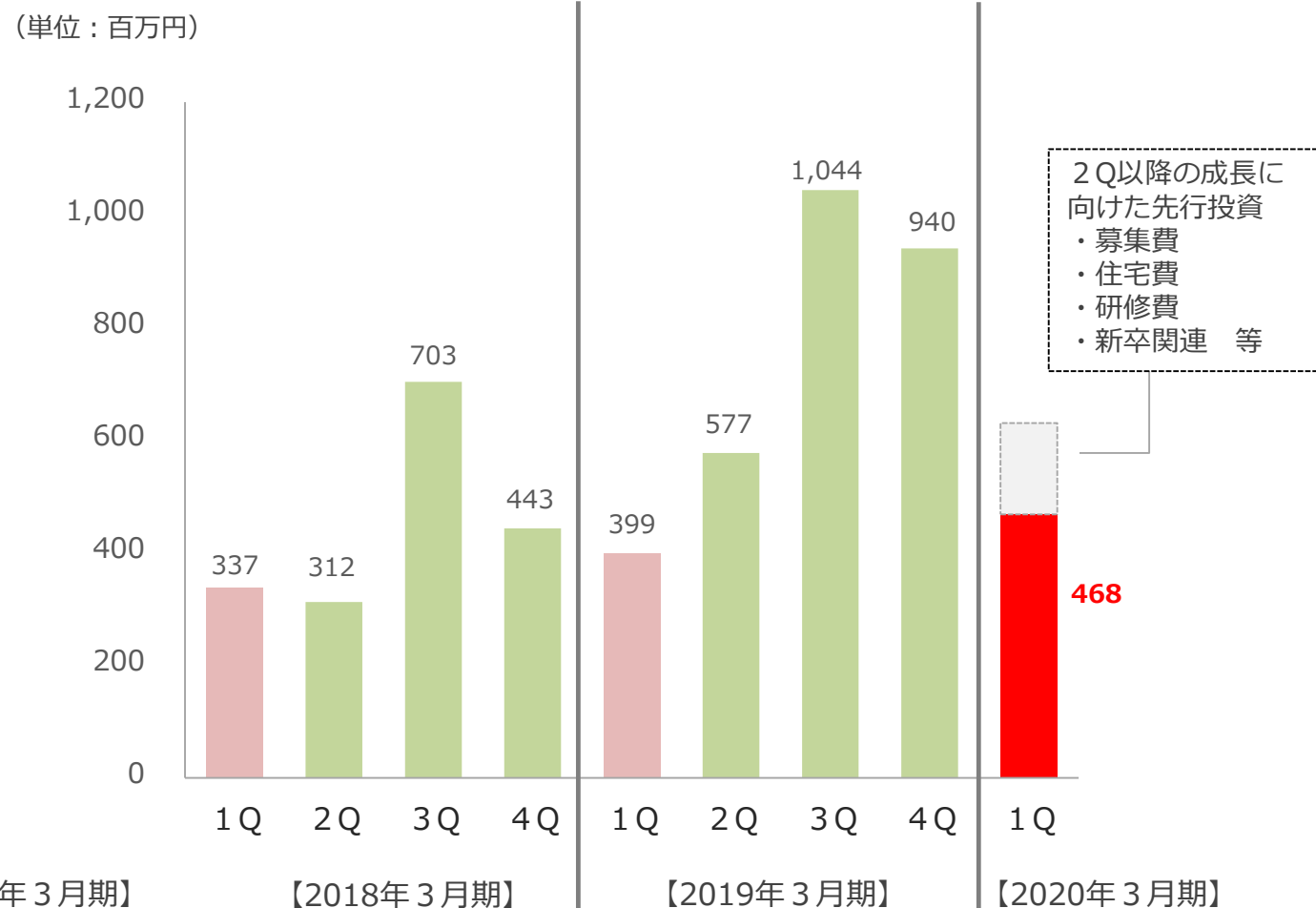
# 2020年3月期 四半期単位の単体業績推移



## 売上高



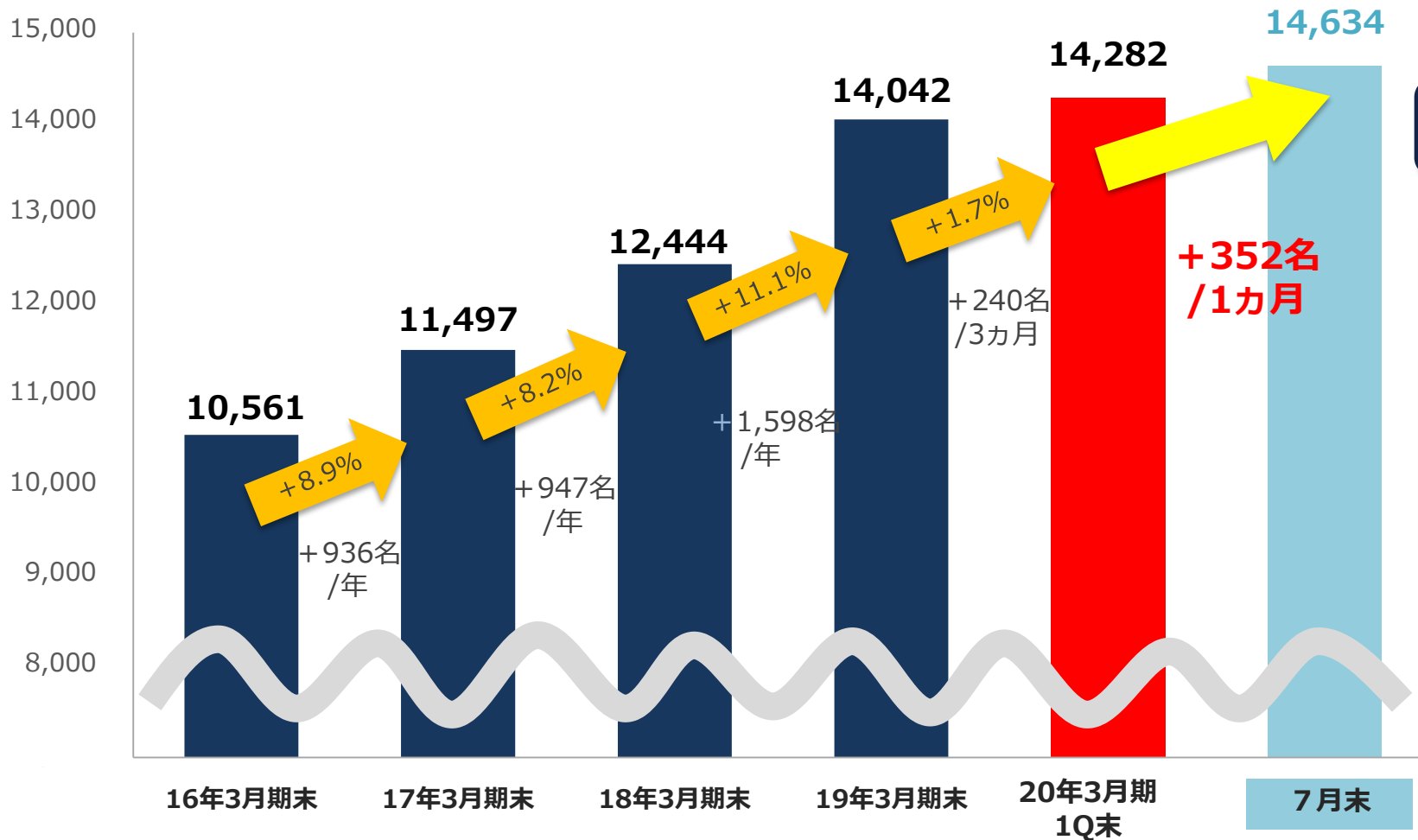
## 営業利益



# 在籍推移（単体）

## 期末在籍人数の推移

(単位：名)



対前期末比 240名増 (1.7%)

自動車関連企業を中心に増加

国内製造業のマインドは低調気味であったが、1Q後半より生産状況は復調の兆しがあり、当社へのオーダーも増加

7月末の在籍は14,634名  
今後も順調に在籍増加見込み

# 2020年3月期 第1四半期 連結業績ハイライト



- 総合人材サービス事業：技能社員、アカウント企業戦略を引き続き展開、期初の顧客企業動向の影響や第2Qに向けた先行投資が発生したが、業績は堅調に推移
- その他の事業：すいとぴー東戸塚の入居者の増加により売上高増、運営の効率化を進め、利益を計上

(単位：百万円)

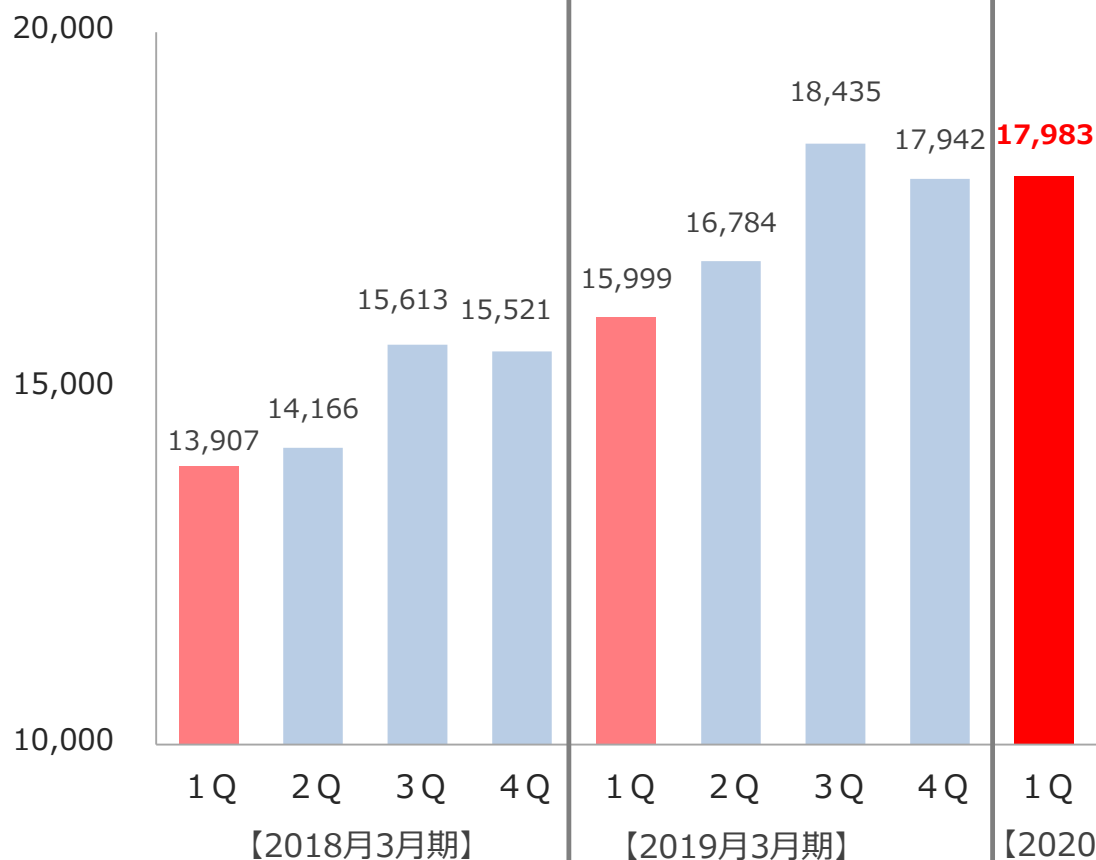
	2019年3月期第1四半期		2020年3月期第1四半期		対前年同期比	
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
売上高	15,999	100.0%	17,983	100.0%	1,984	12.4%
売上総利益	2,661	16.6%	2,964	16.5%	302	11.4%
販管費	2,288	14.3%	2,486	13.8%	197	8.6%
営業利益	372	2.3%	477	2.7%	104	28.2%
経常利益	389	2.4%	490	2.7%	101	26.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	242	1.5%	357	2.0%	115	47.6%

# 2020年3月期 四半期単位の連結業績推移



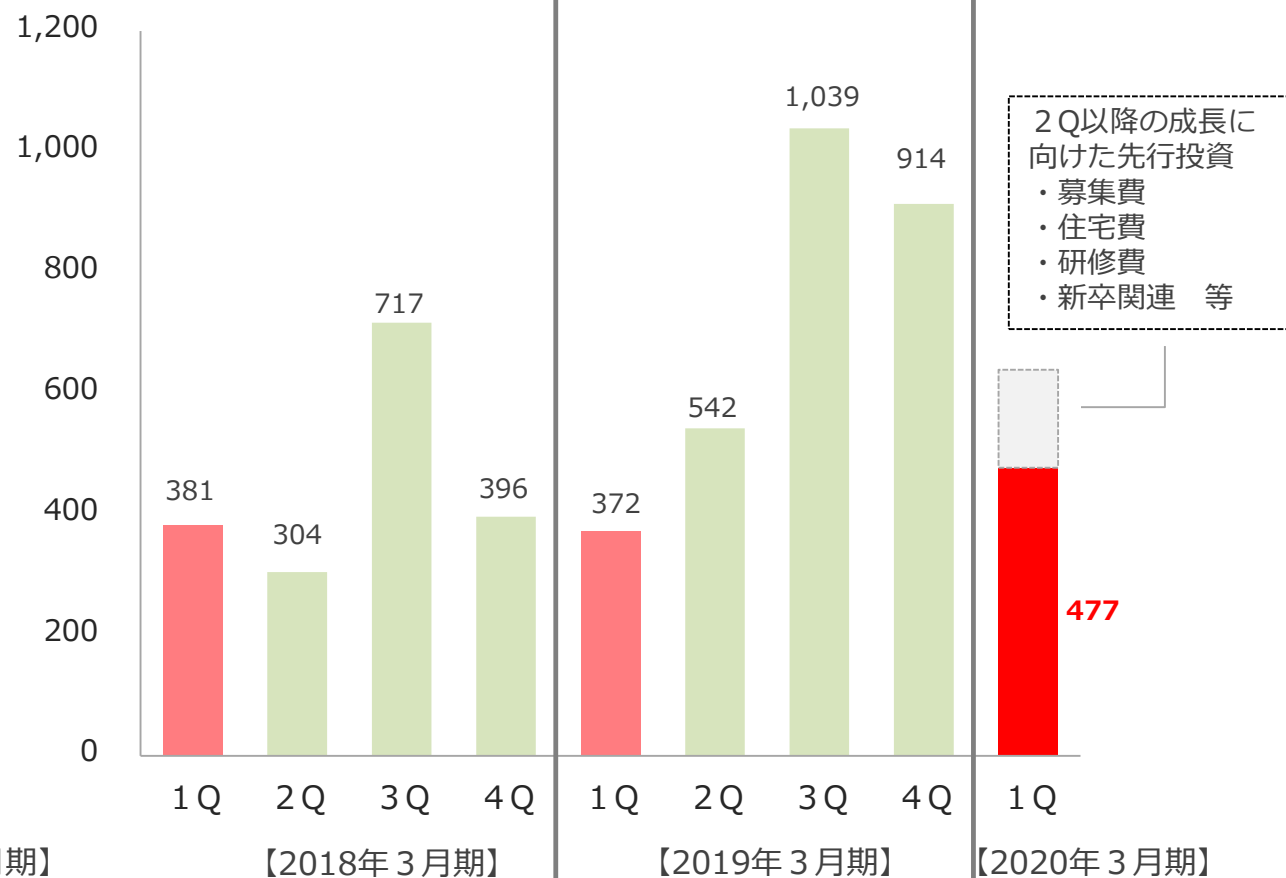
## 売上高

(単位：百万円)



## 営業利益

(単位：百万円)



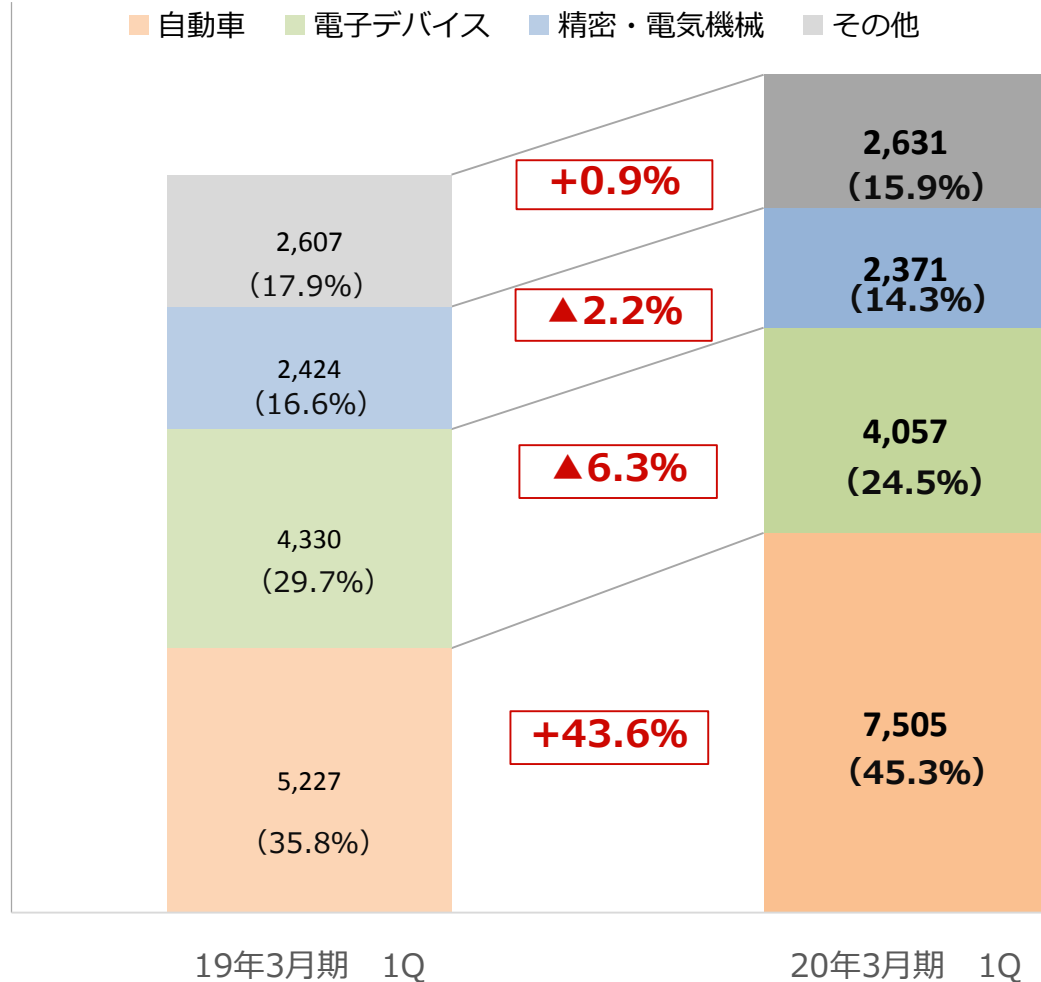


# 1-1 活動の概況

# 第1四半期業種別売上高（単体）

## 売上高構成比推移

（単位：百万円）



### 自動車

構成比の高い自動車業界の売上高は大幅に伸長となる  
今後も新型車種投入や上級モデルの生産が堅調に推移することなどにより売上高増加を見込む

### 電子デバイス

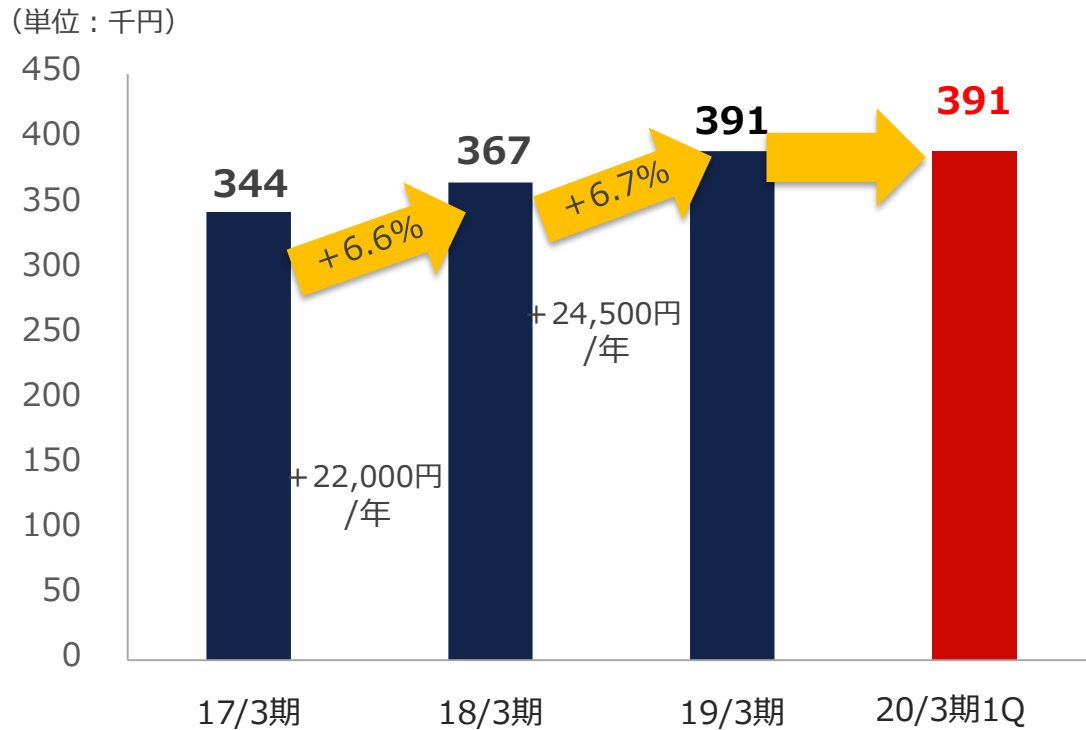
前期末からの需要停滞の状況が続き、前年同期比売上高は減となるが、GW明けから、一部、スマートフォン・車載向け部品生産が増加するなど今後の売上高増加を見込む

※（ ）内%は全売上高比、□内の%は、対前年同期比伸長率

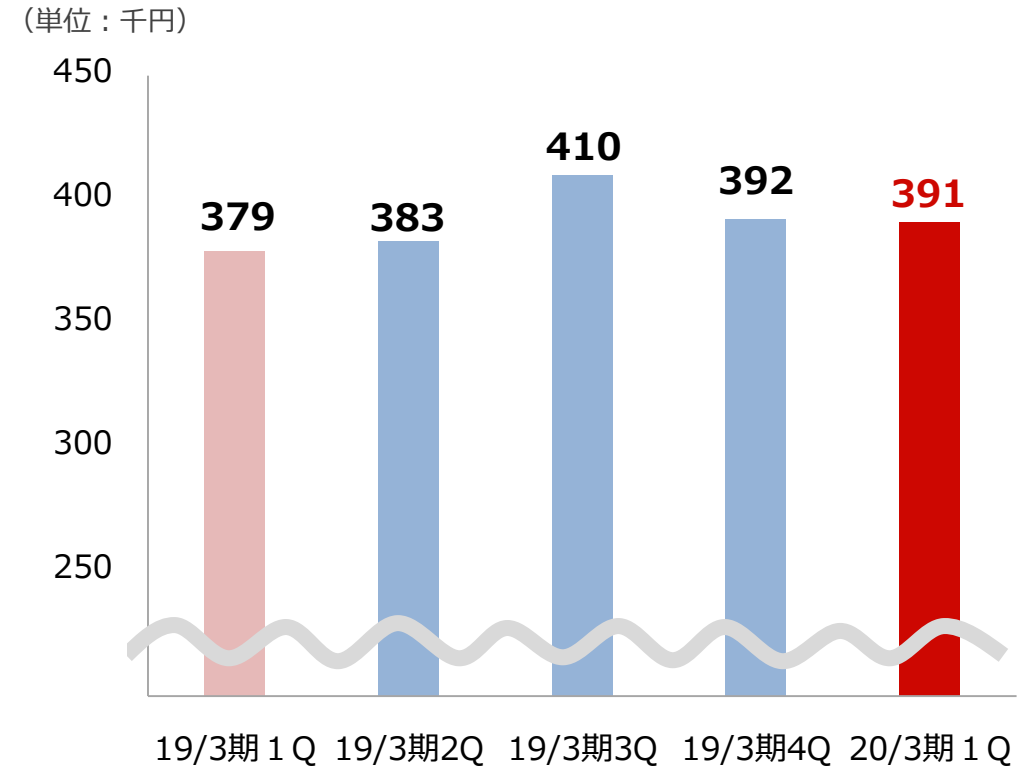
# 一人当たり売上高推移（単体）

- 20年3月期第1Q 一人当たり売上高391千円
- 次期アカウント企業などへの配属を進めた結果一人当たり売上高は前期実績と同水準となる

一人当たり売上高（月平均換算）



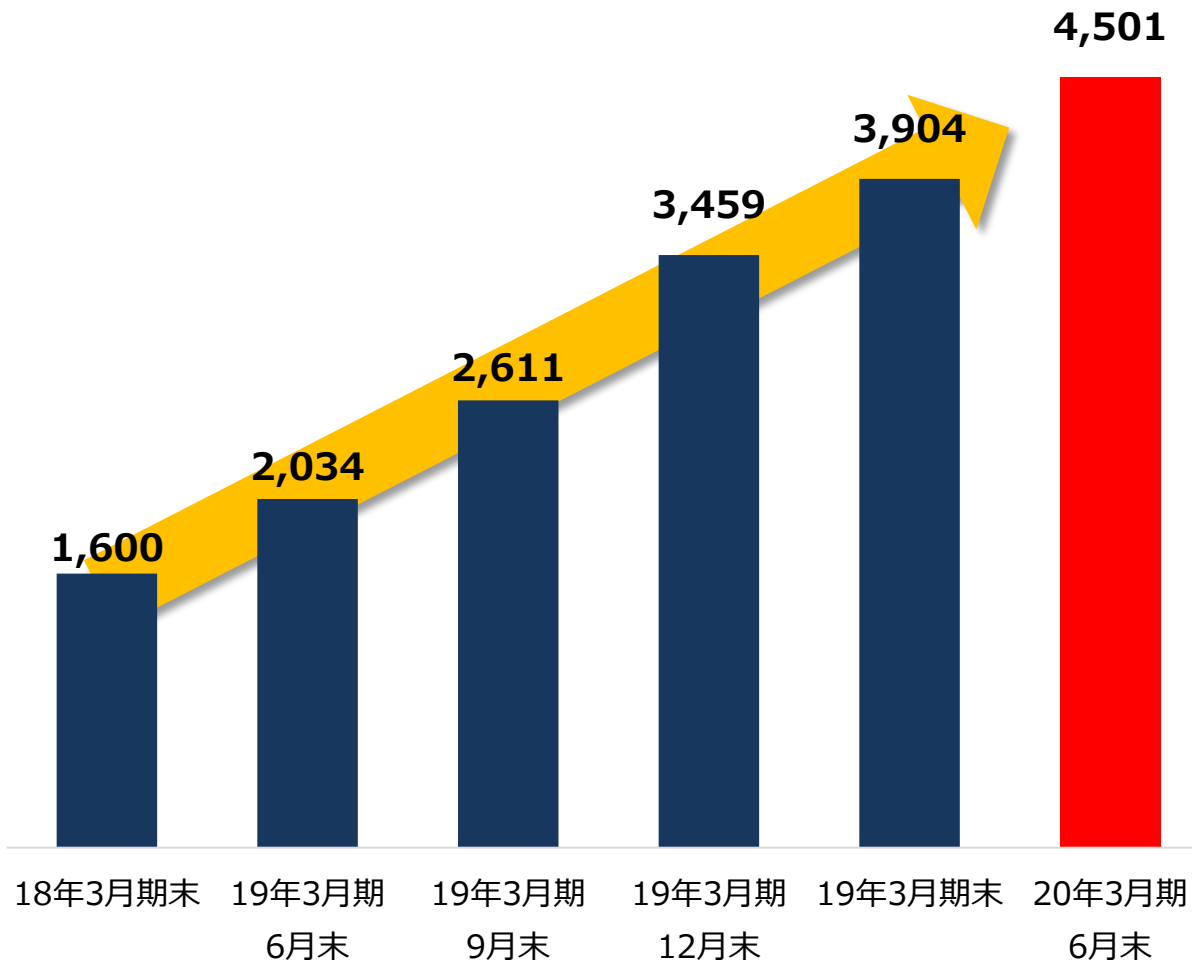
一人当たり売上高（四半期単位）



# 技能社員数（単体）

## 技能社員数推移

（単位：名）



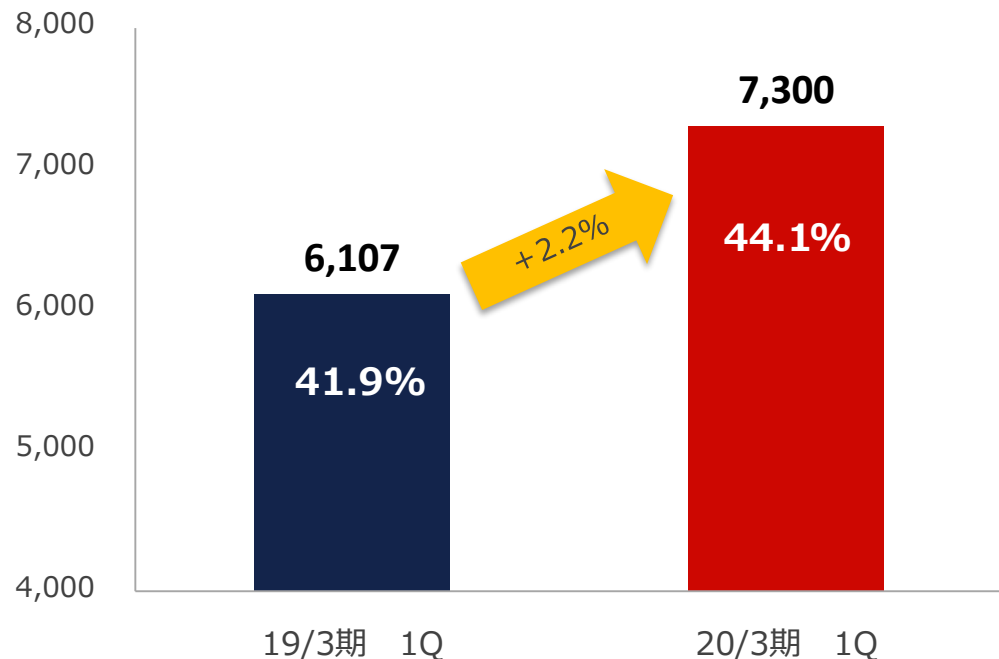
技能社員は順調に増加

引き続き、技能社員の育成を推進し、アカウント企業を中心とした高単価作業所への配属を進めていく

# アカウント企業について（単体）

## アカウント企業グループ売上高と構成比

(単位：百万円/%)



第1四半期、アカウント企業売上高シェア率は44.1%となる

アカウント企業グループの生産状況は自動車企業グループが大幅に伸張  
電子部品企業は前期後半より需要が一部停滞した状態が続いたが、GW明けより復調

今後のアカウント企業グループの生産動向は引き続き好調を見込む

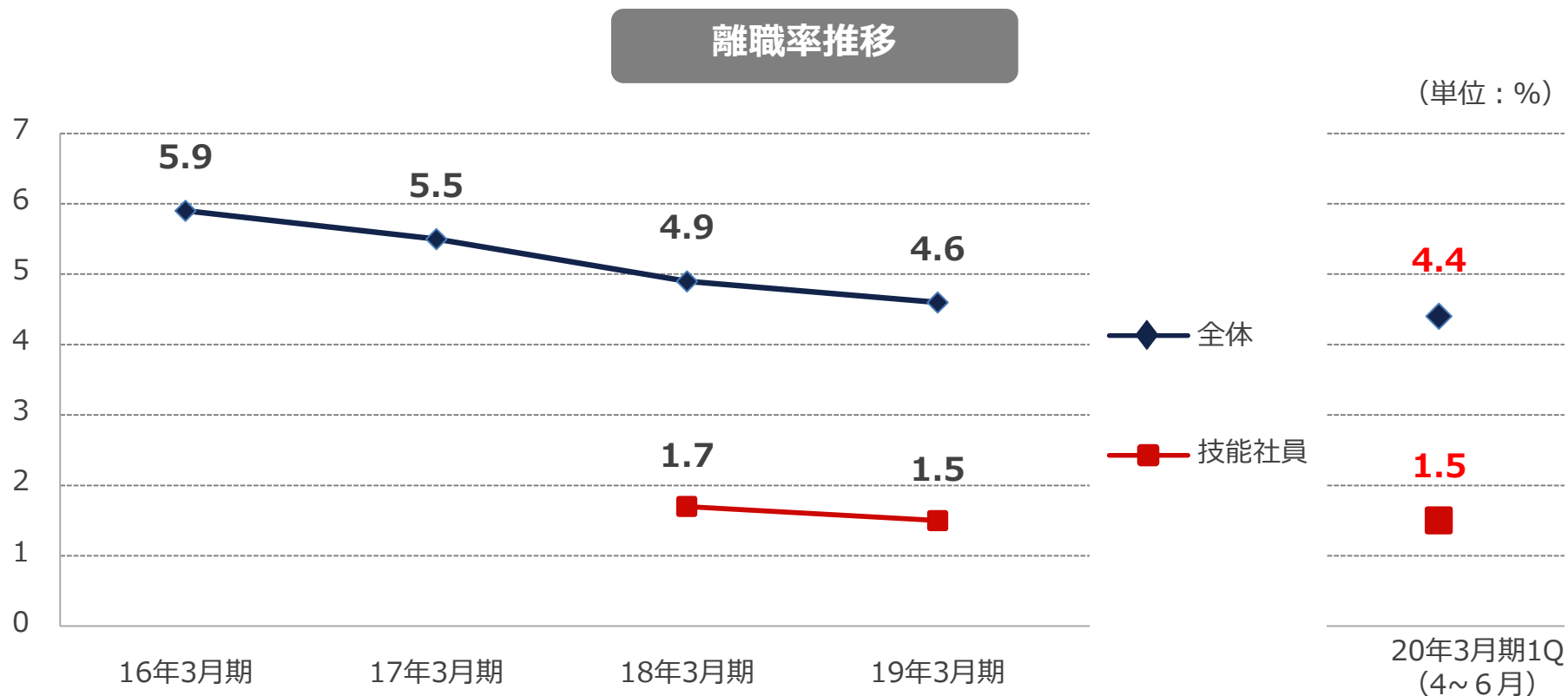
[参考]  
19年3月期 構成比：43.3%

	19年3月期 1Q	20年3月期 1Q	増減
アカウント計(4G)	6,107	7,300	1,192
全売上	14,590	16,566	1,975
構成比	41.9%	44.1%	2.2P

# 離職率（単体）

■ 2020年3月期第1Q 全体の離職率は4.4%（対2019年3月期 ▲0.2P）

■ 技能社員の離職率は2019年3月期の1.5%を維持



# 教育実績（単体）

## 第1四半期コース別教育実績（延べ人数）

（単位：名）

研修名	第1四半期 (4~6月)		19/3期 累計
技能社員教育	393	技能社員スタンダード教育	2,522
認定訓練教育	72	認定職業訓練校（宮城県・長野県）	318
製造教育	312	ものづくり教育 (Iキルト、アドバンス、バーシク)、 製造スタッフ配属前実習、移動教育	3,047
安全教育	162	危険体感教育	1,322
保全基礎教育	39	設備保全基礎教育	167
社員教育	184	新卒研修、途中入社者研修、中堅社員 研修、新任主任教育、業務管理者教育	292
その他	28	外部受託教育	22
合計	1,190		7,690

第1四半期教育受講者は1,190名

保全基礎教育受講者は引き続き順調に  
増加、受講者は受講後、大手半導体  
メーカーにて就業

# その他の事業 事業収益



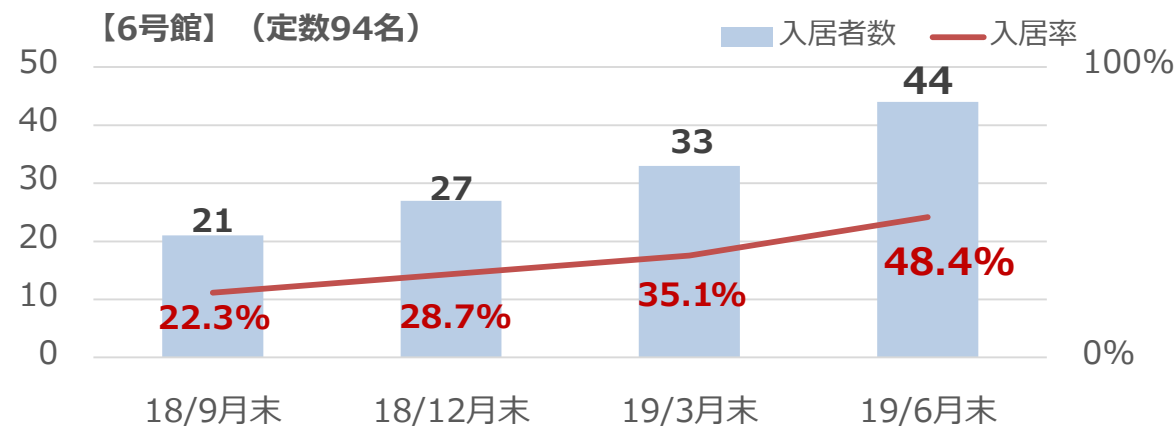
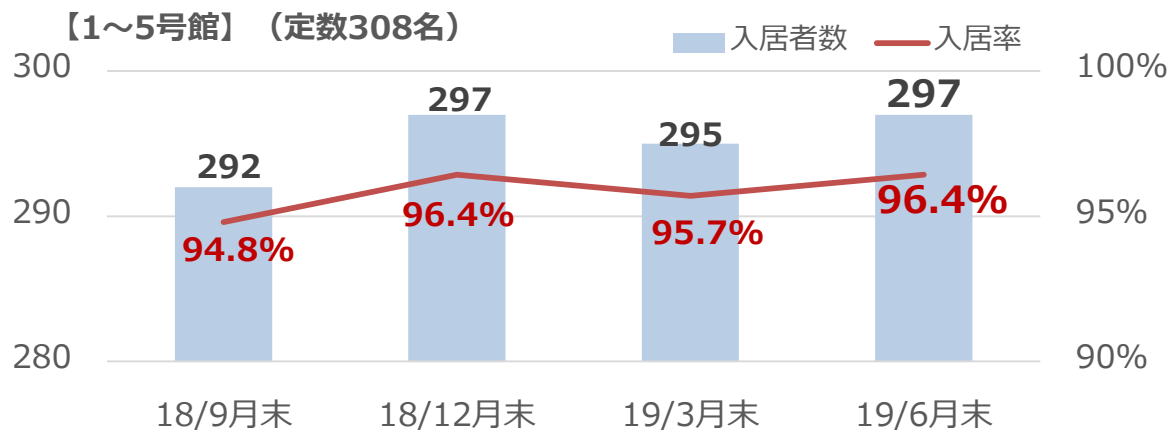
## その他の事業実績

(単位：百万円/%)

	19年3期 第1四半期		20年3期 第1四半期		対前年同期比		19年3期
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率	通期
売上高	587	100.0%	<b>673</b>	<b>100.0%</b>	85	14.5%	2,485
経費	669	113.9%	<b>663</b>	<b>98.7%</b>	▲5	▲0.8%	2,732
営業利益	▲81	▲13.9%	<b>9</b>	<b>1.3%</b>	90	—	▲247

- 売上高は、すいとぴー東戸塚の入居者増加により増加
- その他施設（1～5号館）は、高入居率を維持
- 引き続き、すいとぴー東戸塚入居者増加、経費の抑制を進め、通期の黒字化を目指す

## 施設入居者数推移





## 連結業績

売上高 17,983百万円  
(前年同期比 +12.4%)

営業利益 477百万円  
(前年同期比 +28.2%)

- 売上高は堅調に推移
- 新規取引に対応した寮の設置に係る初期費用（礼金・仲介手数料）や賞与等の人件費で、先行投資を実施

## 業種別売上高

自動車 …+43.6%  
電子デバイス …▲6.3%

- 自動車は、前4Qの水準を維持
- 電子デバイスは、スマホ関連の落ち込みが前半に影響するが、一定量回復

## 四半期末在籍者数

14,282名（前期末比+240名）  
…前年同期は+606名

- 期中純増数は前期1Qに比べ減少
- 電子デバイスの回復にともない、7月末時点の在籍者数は14,634名となり、6月末比+352名

## 一人当たり売上高/月

391千円（前期末比横ばい）  
…前年同期は+12千円

- 価格交渉は計画通り進展
- 1Qは、一部アカウント企業の生産動向が慎重であったことに対し、相対的に派遣単価の中間層である次期アカウント企業への派遣を計画的に増加

## 1-2 今後の見通し

## 需要環境

自動車・・・新車種の導入や上級モデルの安定生産により完成車・部品ともに、国内外の堅調な需要に支えられて生産は増加傾向で推移する見込み（2Q中盤には高止まり見込）  
電子デバイス・・・電装化や自動運転関連技術の需要(事故防止機能向け部品)に伴う車載部品や関連部品が増加傾向

## 採用環境

国内有効求人倍率が高水準で推移する一方、製造業の求人状況は減少傾向となっているしかし、現時点の当社における顧客からの需要（求人）は増加傾向にて推移

## 顧客環境

顧客企業の人事戦略は、直接雇用から外部人材活用への流れは変わらず

**当社の顧客動向は堅調に推移、人材需要は増加傾向を見込む**

## ■ 多様な就業機会の創出

### 株式会社ニコンとの人材派遣事業における協業

当社は、人材派遣事業における株式会社ニコン（社長：馬立稔和、東京都港区）の子会社である株式会社ニコンスタッフサービス（社長：山石裕之、東京都品川区）との協業に関して株式会社ニコンとの間で基本合意を締結いたしました。

「株式会社ニコンとの人材派遣事業における協業に関するお知らせ」（2019年7月12日公表）

少子高齢化・労働力人口減少を背景として、高齢者や女性等の活躍が進んでいます。

これに伴い働く期間や働く場、就労形態、仕事内容など多様な働きかたのできる環境づくりが必要な状態にあり、また同時に労働生産性を高めていくことが我が国の大きな課題となっております。

当社では、多様な人材が活躍する場を開拓する必要性を感じ、今回の協業をこれらの課題に向き合う具体的な第一歩として位置づけ、基本合意に至りました。

## ■ 海外人材の活用

### 中国人新卒エンジニアの育成

- ・ 第1期生（2018年9月入社 10名）  
→ 専門的な技術を活かし、顧客企業で活躍中
- ・ 2019年9月 第2期生18名入社予定



### 日系外国人の活用

- ・ 地方における日系コミュニティを活用した人材採用
- ・ トライアル作業所の立ち上げ（高い定着率の実績）
- ・ 今後の活動 横展開型の外国人労働者活用作業所立上げ  
リーダーの育成、コミュニティを広げ、採用数を拡大

## ■ 日総ぴゅあ 感謝祭

(2019年7月25日・26日)

当社特例子会社「日総ぴゅあ株式会社」は、年に一度の活動報告会を開催しました。

今年で12回目を迎えるこの活動に、来場者は延べ385人を数え、学校関係者、就労支援機関関係者や保護者が来場しました。



- 感謝祭では、障がい者社員が来場者に向けて、日常の活動の成果をプレゼンテーションしたり、実演販売を行いました
- 又、今回は障がい者社員が、各グループ会社のトップヘンタビューを行い、その内容を新聞として配布を行いました。

## ■ 2019東日本大震災 復興支援活動

(2019年6月23日)

横浜FCが東日本大震災発生後、「風化させない。継続的な支援を」をキャッチフレーズに福島県で8年間、復興支援活動を実施しており、当社がその活動に協賛しました。



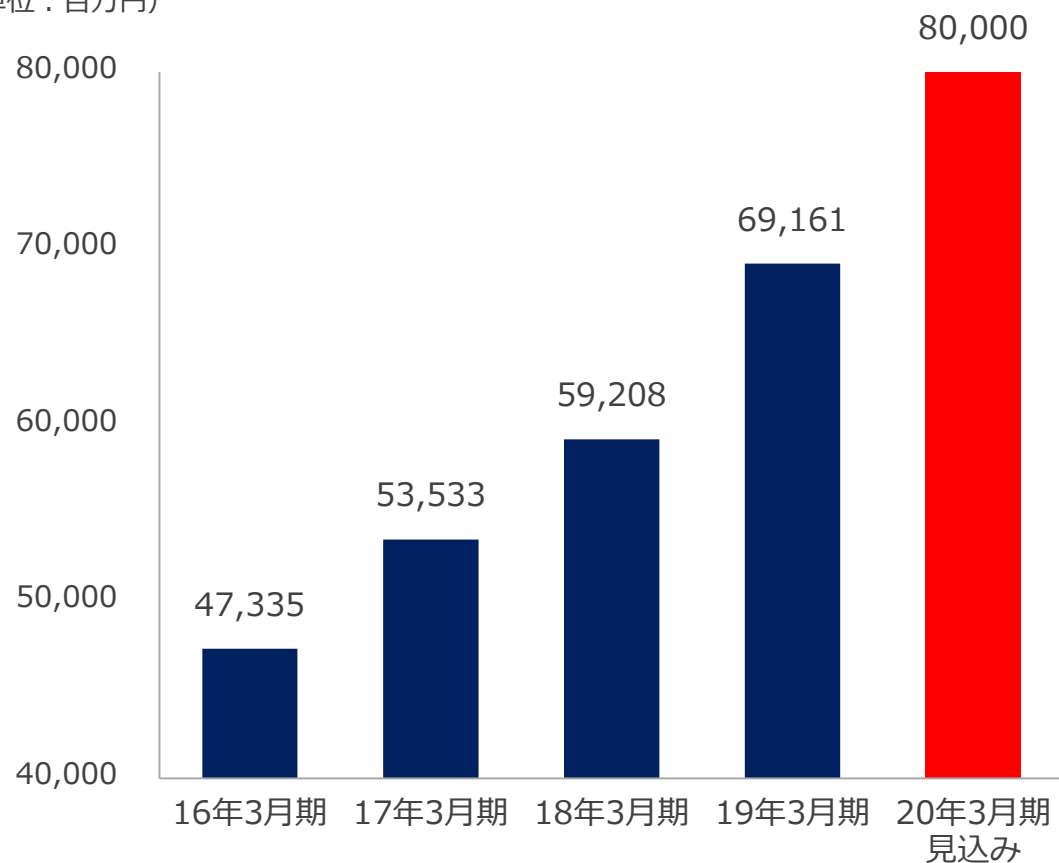
(子供にプレゼントしたノート)

- 今年は、復興のシンボルとして2019年4月に全面再開されたJヴィレッジにて「復興支援マッチ」が開催されました
- 当社は同日に開催された、子供達向けの「サッカー教室」に協賛し、復興の支援を行いました。

## 2. 2020年3月期 業績予想

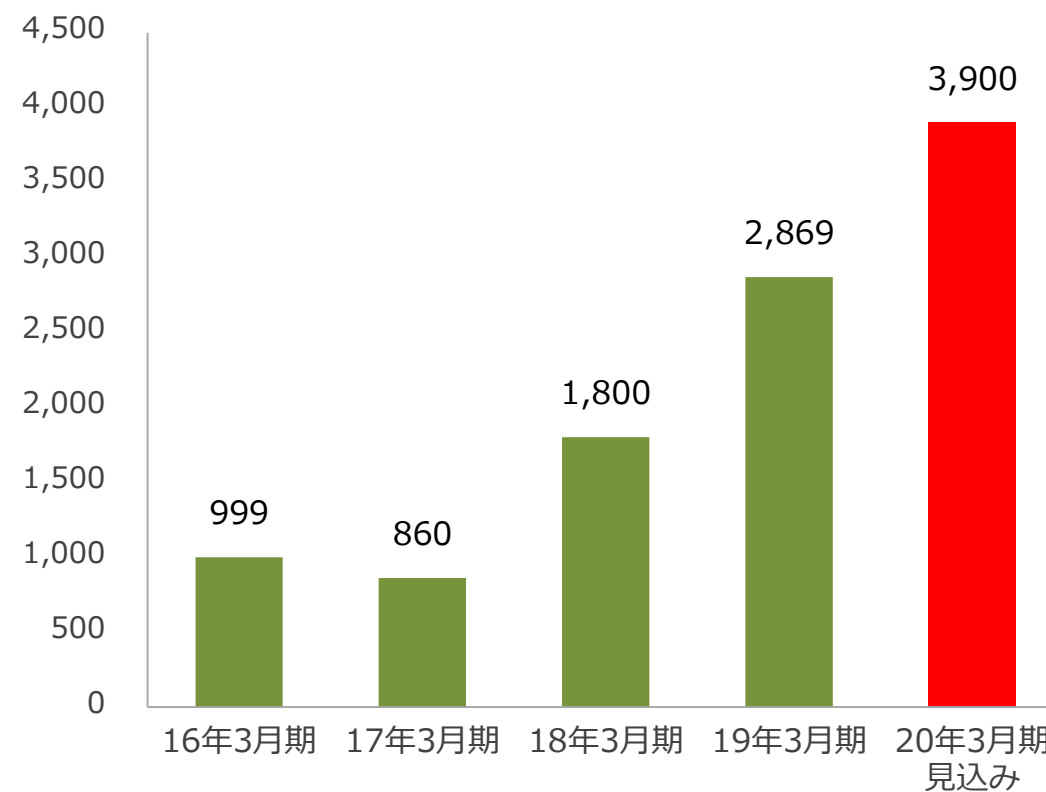
## 売上高

(単位：百万円)



## 営業利益

(単位：百万円)





## 3. 株主還元方針

- 当社は、株主に対する利益還元と企業価値の向上を経営の重要課題と位置付けており、成長投資のための資金の確保及び事業環境の変化に対応できる企業体質の強化とのバランスを考慮しつつ、株主の皆さまへ安定した利益還元を継続することを基本方針としております。

19年3月期配当実績

**18.5円/株**

**(連結配当性向30.0%)**

20年3月期配当  
(見込み)

**25.0円/株**

**(連結配当性向30.4%)**

2019年5月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、  
2019年3月期の配当実績は、2019年5月1日付分割後の配当金額を記載しております。

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

### 〈IRに関するお問い合わせ先〉

日総工産株式会社 広報・IR本部 IR部

電話 : 045-777-7630

E-mail : [ir@nisso.co.jp](mailto:ir@nisso.co.jp)

URL : <http://www.nisso.co.jp/>